

# ことばの世界を広げる

2011/7/10 札幌定例会  
藤坂龍司

## 1. 単語から文へ

### (1) 動詞の表出

文章を言わせるには、まず動詞から。「物に関する複数の指示」を教えるから、それを表出させるとよい。

「たたいて (とんとん)」「ふって (ふりふり)」「たべて (もぐもぐ)」「投げて (ポイ)」

↓

「何してる?」「振ってる」「食べる」「たたいてる」

※最初は「ふりふり」「もぐもぐ」「トントン」でもよい。

### (2) 物+動詞 (O+V) の二語文

動詞が言えるようになったら、名詞と組み合わせて、「物+動詞」の形の二語文(「りんご、食べる」など)が言えるようにする。

#### ①受容 (物×指示)

テーブルの上に二つの物(例えばりんごとバナナ)を置き、それぞれに対して複数の指示を出す。例えば「りんご、もって」「バナナ、たべて」など。

りんご	}	×	{	もって
バナナ				ふって
				たべて

#### ②受容+表出

物×指示の直後に、大人がその動作をして見せて「どう?」と聞き、「物+動詞」の形で言わせる。

「りんご、もって」→子どもがりんごを持つ→「どう?」「りんごもってる」

#### ③表出の独立

上手になったら、指示を出さずにいきなり何かの動作をやって見せ、「どう?」と聞く。

「○○、～してる」の形で答えさせる。

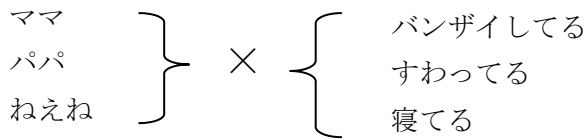
※なるべく市販の動作カードに頼らないこと。市販のカードにはたいてい、一つの物について一つの動作しかない(「本、読む」)、丸暗記してしまう可能性が高いから。

### (3) 人+動詞 (S+V)

「物+動詞」(目的語+他動詞)が上手になったら、「人+動詞」(主語+自動詞)へ。

「ママ、寝てる」「パパ、すわってる」「ねえね、バンザイしてる」

家族がいろんな動作をしている写真を用意する。一つの動作について、必ず2人以上の写真を用意すること。



ここでも

- ①受容（カードを並べ、「ママ、バンザイしてる」で選ばせる）
- ②受容+表出（選ばせた直後に「どう？」と聞いて、「ママ、バンザイしてる」と言わせる）
- ③表出の独立（一枚ずつ「どう？」と聞いて、言わせていく）の順で練習する。

カードでできるようになったら、必ず現実場面へ般化。例えばあなたが動作をして見せて、「ママ、ジャンプしてる」などと言わせる。

#### <フィギュアの利用>

写真を使う以外に、動物などのフィギュアを使っても練習できる。

例えば、ゾウとカバとキリンのフィギュアをテーブルに並べ、「ぞうさん、ねて」「かばさん、あるいて」などと指示を出し、その動作をさせる。「どう？」と聞き、「ぞうさん、ねてる」「かばさん、あるいてる」などと言わせる。

#### (4) 人+物+動詞 (S+O+V)

##### <写真カードを使って>

物+動詞、人+動詞の二語文が上手になったら、人+物+動詞（主語+目的語+他動詞）の三語文へ。ここでも家族の写真を使う。最初のうちは、一つの物につき、二人以上の人、二つ以上の動作を用意すること。そうでないと、丸暗記になってしまい、応用力がつかない。

例：パパ（ママ、にいちゃん）、バナナ（りんご、スイカ）、食べてる（持ってる、切ってる）

      パパ（ママ、にいちゃん）、本（新聞）、読んでる（持ってる）

      パパ（ママ）、かさ、さしてる（持ってる）

##### <フィギュアを使った練習>

テーブル上に、ぞうさん、きりん、かば、食べ物としてバナナ、りんご、ぶどうを置く。

子どもに「ぞうさん、りんご、たべて」と指示を出す。ぞうを持って、りんごを食べるまねをさせる。すぐに大人が子どもからぞうとリンゴを受け取り、同じ動作をやって見せながら、「どう？」と聞いて、「ぞうさん、りんご、たべてる」と言わせる。

ここでも①受容、②受容+表出、③表出の独立の手順で。

## 2. 知識と概念

ことばの世界を広げるためには、知識や概念を増やす必要がある。

例えば物について、その名前だけでなく、色や形、その他の特徴や用途を教え、それが言えるようにする。物だけでなく、人や場所についても同様に知識を広げ、深めていく。

ここでは動物を例にとって、その特徴の教え方を説明する。

#### (1) 動物の鳴き声

手始めに、動物の鳴き声から教えるとよい。教えるときは、やはり受容と表出の両面から教える。

まずテーブルにいくつかの動物を並べる。その中から例えばぶたを取り上げて「ぶた、何て鳴く？」と聞き、ただちに「ぶーぶー」と言ってまねさせる。他の動物も同じ。

次に「ぶーぶー（って鳴くの）は？」「パオーンは？」と言って選ばせる。選んだ直後にまた「パオーンって鳴くのは？」と聞き、「ぞうさん」と言わせる。

## （2）動物の部位

「ぞうさんは鼻が長い」という特徴を教えるには、その前提としてぞうの鼻がどこにあるのかを理解させる必要がある。また「鼻が長い」と言うのはどういうことなのかを教える必要もある。それらの理解がないのに、やみくもに暗記させても、知識としては身につかない。

そこでいろんな動物の体の部位を教えよう。そのためには3Dのフィギュアが必要である。ぞうなら、鼻だけでなく、目、耳、口、背中、おなか、足、尻尾がどこにあるのかも教える。「きば」も教えよう。

鳥なら、羽根とくちばしを教えるべきである。ライオンならたてがみ、サイなら角、らくだならこぶ、カンガルーならおなかの袋がどこにあるかを教えよう。それはあとで特徴を教えるときに役に立つ。

## （3）動物の特徴

「鼻が長い」というのはどう言うことなのか、絵を描いて教えよう。



例えば上の二つの絵を比較して、「鼻が長いのは？」「鼻が短いのは？」と聞き、正解を指ささせる。このように最初は鼻の長さ以外は全く同じにしておくこと。つまり最初からぞうとぶたと馬を比較するのではなく、鼻の長いぞうと鼻の短いぞうとで比べる。それによって、子どもが本当に「鼻が長い」ということを理解しているかどうか、確かめることができる。ぞうとぶたと馬を並べて「鼻が長いのはどれ？」と聞いて、ゾウを選んでも、それは鼻の長さ以外の特徴、例えば耳の大きさに着目して選んだのかもしれない。

同じように、「首が長い」「耳が長い」とはどういうことかを絵を使って教えておく。

その上で、初めてぞうときりんとうさぎを並べて、「鼻が長いのは？」「首が長いのは？」「耳が長いのは？」と聞いて選ばせる。選べたら、今度は「ぞうさんは何が長いのか？」とか「首が長いのは何？」「うさぎはどんなもの？」などと聞いて答えを言わせる。

選んで、言わせるだけでなく、ぞうやきりんやうさぎの絵を描かせることによって、特徴に関する理解をさらに確かなものにするができる。

他にもいろんな動物の特徴を教えよう。ぞうだったら、草を食べること、力持ちであること、アフリカの草原に住んでいることなども教える。最終的にはぞうについて1分くらいお話ができるくらいになってほしい。

### 3. 発語から会話へ

#### (1) 社会的応答

「お名前は?」「何歳?」といった、答えが決まっている質問は、「これ何?」「何色?」のような答えがその都度変わる質問に比べて教えやすい。そこで本格的な質問の弁別訓練に移る前に、この社会的応答から教えるとよい。

教え方は取りあえず答えを暗記させる。「お名前は?」と聞いてすぐに「〇〇」と名前を言ってやり、まねさせる。「何歳?」も同じ。それぞれ、答えがプロンプトなしで言えるようになってから、ランダムローテーションにかけて、区別を確実にさせる。他の質問も順次追加して行く。

#### (2) 質問の弁別

「これ何?」と「色は?」、「だれ?」と「どこ?」のどちらかを最初に教えるとよい。

<「これ何?」「色は?」>

色のはっきりしたコップなどを使う。「これ何?」と「色は?」の違いに気づかせるため、いろんな工夫（プロンプト）をする。

①仕草を変える（「これ何?」は両手でコップを持つ。「色は?」はコップの表面を指さす）

②質問の声の高さを変える（「これ何?」は高く、「色は?」は低く）

③質問の声のスピードを変える（「これ何?」は速く、「色は?」はゆっくり）

質問のことばも、「これ何?」と「何色?」だと、「なに」の部分が共通なので紛らわしい。そこで「何色?」の代わりに「色は?」と言う聞き方をするとよい。

ランダムローテーションで区別ができれば、①～③のプロンプトを徐々にフェードアウトし、「これ何?」と「色は?」の言葉の違い以外の違いをなくすようにする。それができれば仕上げとして、「色は?」の代わりに「何色?」という本来の自然ないい方に変える。

「これ何?」と「色は?」の区別がついたら、「何の仲間?」「何するもの?」「どんな形?」「何個?」など、物に関するそのほかの質問も順次教えて行く。

<「だれ?」と「どこ?」>

家族の誰かが、家のどこかわかりやすい場所（トイレ、お風呂、台所など）にいる写真を使う。

写真は一枚に絞り、徹底的にランダムローテーションで「だれ?」と「どこ?」の区別を教えて行く。

プロンプトとして、

①指さしの位置（「誰?」の時には人の顔を、「どこ?」の時には背景にあるわかりやすい物を指さす）

②声の高さを変える

③声のスピードを変える

を用い、区別がついたら、徐々にプロンプトをフェーディングして行く。

「だれ?」と「どこ?」の区別がついたら、「何してる?」も教える。

#### (3) 質問の自発

つきみBOOKに書いてある通常の方法以外に、以下のようにごほうびを活用した次のような方法も。

「これなに?」 おやつを箱に入れて。

「どこ?」 おやつを隠して「どこ?」と言わせて場所を教えてあげる。

「だれの?」おやつを一つずつ見せて「誰の?」と聞かせ、「ママの」とか「〇〇ちゃんの」と言う。